

「柏崎の水」

善根 不動滝 その2

不動滝は多くの文人墨客が訪れ、詩歌にも詠まれている。柏崎の名勝48か所についての句を集めた「小太郎」（1715年刊）には、「八谷飛流」として次の句をはじめ7句が載っている。

鳶かつら不動の縛^{はく}や滝津浪 僧 日宝

夏滝や鷺横たふて十文字 郁翁

また、出雲大社大宮司や司法大臣などを勤め、唱歌「一月一日」の作詞でも知られる千家尊福^{せんげたかとも}が、越後の村々を巡って記した「越の道ゆき布理^{ぶり}」（1885年刊）にも、次のとおり取り上げられている。

嘉納村^{かのう}の関定平か家にて八石山の滝を見て

おく山の雪にさらしてさらに又
雪より清し滝のしら糸

信仰の対象でもあった不動滝の周囲には、いくつもの石仏や碑が建っている。なかでも不動明王像は、滝壺付近と遊歩道に計4体が祀られている。滝壺向かって左の不動明王像は、佐之久出身で明治時代に活躍した力士柏戸が寄進したものとしてよく知られ、その台座には「第八代 柏戸 明治十六年八月建立」などと刻まれている。遊歩道にある不動明王像は、もともと八石登山道の入口に建っていたものであり、かつて人々はそこで耕作や薪・山菜取りの無事を祈願していた。現在の場所は、不動滝が多くの人で賑っていた頃、茶屋が出ていた場所だという。



明治大正期の不動滝の様子
(当館所蔵「小竹コレクション絵葉書」の部分拡大)



「小太郎」の挿絵 下部の芥川とは鯖石川のこと

不動明王の靈験は肩の凝り・眼病等を治癒するといわれるが、「おらが村の昔語り 第4集」によれば、次のような話があるという。『生まれつき髪が生えない、という難病に苦しむ人がいた。病気の原因は「三代前の人が不動様に願をかけたのにお礼詣りをしていない祟り」だという。その不動様とは、山が二つあり滝が落ちて下に川が流れる所にあるというので、善根の不動滝に違いないと思い、滝の前でお経をあげてもらった。読経が終わると、今まで曇っていた空から日が差してきて滝壺が照らされた。すると、滝の中の岩が人の顔のように見え、流れ落ちる水はまるで頭髪が垂れているかのようなだった。』

現在も不動滝は地域の象徴として敬愛されている。訪れる人こそ減ったが、八石保勝会の方々が中心となって清掃が永く行われてきた。2000年4月に滝壺に至る遊歩道や水辺への階段が設置されるなど周辺整備と景観保全が図られたのも、滝に対する地元の人々の深い思いがあったからこそといえよう。

参考にした本

「おらが村の昔語り」中鯖石郷土史クラブ 編(388 冊)

「柏崎の石仏」柏崎市立博物館 編(383 K 冊)

「小太郎 柏崎四十八題」市川釜見 編(913 冊)

「八石」中鯖石コミュニティ振興協議会 編(050 冊)

「越の道ゆき布理」は、国立国会図書館Webサイト内の近代デジタルライブラリーで読むことができます。

アドレス：<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>